

◆ブルーインパルスの展示飛行に反対!

3・11以降の状況のなか、東北支援、反原発から運動を整理しつつ、本来の「地域でできる戦争非協力」路線へたちもどるべく努力を続けています。そんなおり、国際航空

宇宙展が一〇月九日から一四日まで、愛知県県のポートメッセなごやと中部国際空港を会場に開催されることがわかりました。日本の「航空産業」の展覧会ですが、一〇月一四日には航空自衛隊のブルーインパルスが展示飛行を行うことが発表されました。ブルーインパルスの飛行については愛知県では大きな意味合いをもっています。小牧基地では、周辺自治体などが、「基地強化の疑念を抱かせ、事故や騒音の不安もある」と反対し、おこなわれていません。小牧基地にとつては「悲願」ともいえるのです。二〇〇九年には基地協力が嘆願書とともに署名を提出して、当時の谷井基地司令もなみなみならぬ意欲をしましたが、周辺住民の反対により、中止となりました。基地航空祭でブルーインパルスの飛行がおこなわれるかどうかは、とても重要な問題となっています。

私たちは中部国際空港での展示飛行にはもちろん反対ですが、これが、小牧での飛行に弾みをつけるために利用されることをもつと心配しています。愛知県は国際航空宇宙展の後援団体となっていますので、愛知県への働きかけをおこなおうと思っています。小牧基地は名古屋空港の滑走路を利用してありますが、県、周辺自治体は「基地機能強化」に反対しており、名古屋空港を県営空港として育成するという姿勢をしめてきました。これまでの県のこの姿勢が大村県政で引き継がれていくのかは、たいへん疑問なところです。それに、愛知県は「航空宇宙産業」育成をにかけています。

今回の国際航空宇宙展とブルーインパルス飛行が、「基地機能強化反対」という地元と県の姿勢に変化をもたらすかもしれません。航空自衛隊はそれをみこして地元対策を強力にすすめることは間違いないと思います。

定点

観測

◆沖縄から、靖国を糾す

沖縄靖国合祀取消し訴訟の上告に対して最高裁が棄却判決を下した。第二小法廷裁判長はイラク攻撃に自衛隊派兵を進言した竹内行夫氏だそう。

〇八年三月提訴から三年半、法廷で明らかにされた事実が多い。一九五二年に役員を派遣して沖縄戦の惨状を既知に知らせた政府は、再軍備と抱き合わせ予算で「援護法」を制定、軍人・軍属に加えて準軍属身分を作り、これに戦場死した住民を当てはめて拡大適用していったこと。申請に当たり住民の被害性を戦闘参加内容に変えるには厚生省に指導された琉球政府職員による捏造が不可欠であったこと。五名の原告遺族は住民であつた家族が事実と異なる扱いを受けた上、明治以来の侵略戦争を聖戦とする靖国神社に無断合祀され続けることを拒否したが……。地裁から最高裁まで司法権力が守り通したものは、靖国神社の信教の自由及び国とつるんだ合祀活動の正当性であつた。靖国を核とした民衆の精神的動員は戦後も形を変えつつ続いている。

与那国の未来を自衛隊誘致によらないで作ろうとする人々が住民投票条例制定のための署名活動を始めている。有権者一二八名中、必要数は二五名だが町長リコールや議会解散を請求できる四一〇名以上を目指す。

六月二十九日の「接受国通報」で米国はオスプレイ配備を正式に通告するという。モロッコでの事故調査結果が七月下旬に予定されている中、同時に岩国へ、八月には普天間へ持ち込むという。合理性をこままで無視する米国防総省は大きな誤算を抱えてしまったようだ。沖縄防衛局が関係市町村へ「事故原因が操縦ミスによるもの、機体は安全」と説明するほどに不信感を惹き起こす。三九市町村が普天間配備に反対・県民大会開催の意思を示している。公表されたオスプレイ飛行ルートは県内各地に及び、うるま市の島袋市長は「宜野湾だけに責任を負わせてはならない」と言及、

名実共に沖縄総立ちして押す・プレイする他なし!

沖縄

(八木巖／不戦へのネットワーク)

(島尻まーじ)

名古屋